

製品名: CEP55 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab08667

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	CEP55
別名	CEP55; C10orf3; URCC6; Centrosomal protein of 55 kDa; Cep55; Up-regulated in colon cancer 6
遺伝子 ID	55165.0
SwissProt ID	Q53EZ4
免疫原	抗血清はヒト CEP55 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

背景

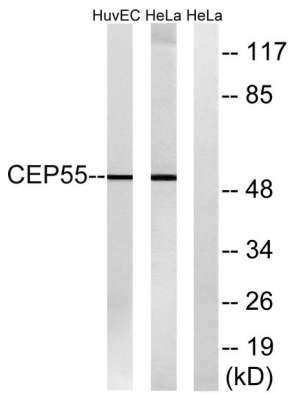
機能:有糸分裂からの離脱と細胞質分裂に関与する。微小管の核形成に必要ではない。細胞質分裂中に PDCD6IP と TSG101 を中央体

にリクルートする。、PTM:リン酸化には階層性があり、有糸分裂の開始時には Ser-425 と Ser-428 の両方が Ser-436 よりも先にリン酸化される。Ser-425 と Ser-428 のリン酸化は、G2/M 境界で中心体から解離するために必要である。Ser-425、Ser-428、Ser-436 の3つの部位のリン酸化は、細胞分裂の最終段階でタンパク質機能が細胞質分裂を正常に完了するために必要である。、細胞内局在:間期には中心体に存在し、その一部は主に母中心小体に関連しているが、大部分は中心小体周囲物質に局在する。有糸分裂中、前期の開始時に中心体への親和性が失われ、細胞全体に拡散する。この中心体からの解離は、リン酸化に依存する。特定の細胞種では、有糸分裂中に中心体に局在したままになることがある。後期分裂後期には分裂溝に、細胞質分裂時には中央体に現れる。、サブユニット:ホモ二量体。PLK1 と相互作用(Ser-425 および Ser-428 がリン酸化)する。AKAP9 と相互作用する。この相互作用は間期に起こり、有糸分裂に入ると失われる。PCNT と相互作用する。この相互作用は間期に起こり、有糸分裂に入ると失われる。PDCD6IP と相互作用する。この相互作用は直接的である。CEP55 は、2:1 の化学量論で PDCD6IP に結合 TSG101 は PDCD6IP と結合部位を競合し、細胞質分裂には相互作用が必要ですが、ウイルスの出芽には必要ありません。FAM125A、VPS37B、VPS37C、VPS28 と相互作用します。、組織特異性:主に増殖組織で広く発現しています。精巣で高い発現を示します。成人および胎児胸腺、ならびに様々な癌細胞株では中程度の発現レベルを示します。消化管、骨髄、リンパ節、胎盤、胎児心臓、胎児脾臓の様々な部位では低レベルの発現を示します。脳ではほとんど検出されません。、機能:有糸分裂からの離脱および細胞質分裂において役割を果たします。微小管の核形成には必要ありません。細胞質分裂中に PDCD6IP と TSG101 を中央体にリクルートします。、PTM:リン酸化には階層があり、有糸分裂の開始時には Ser-436 よりも先に Ser-425 と Ser-428 の両方がリン酸化されます。Ser-425 と Ser-428 のリン酸化は、G2/M 境界で中心体から解離するために必要です。Ser-425、Ser-428、Ser-436 の3つの部位のリン酸化は、細胞分裂の最終段階でタンパク質機能が細胞質分裂を正常に完了するために必要です。、細胞内局在:間期には中心体に存在します。少量は母中心小体と優先的に関連していますが、大部分は中心小体周囲物質に局在します。有糸分裂中、前期の開始時に中心体への親和性が失われ、細胞全体に拡散します。この中心体からの解離はリン酸化に依存します。特定の細胞種では、有糸分裂中に中心体に局在したままになることがあります。後期有糸分裂では分裂溝に、細胞質分裂では中央体に現れます。、サブユニット:ホモ二量体。PLK1 と相互作用します(Ser-425 および Ser-428 がリン酸化されます)。AKAP9 と相互作用します。この相互作用は間期に起こり、有糸分裂に入ると失われます。PCNT と相互作用します。この相互作用は間期に起こり、有糸分裂に入ると失われます。PDCD6IP と相互作用します。この相互作用は直接的です。CEP55 は PDCD6IP に 2:1 の化学量論で結合します。PDCD6IP は同じ結合部位で TSG101 と競合します。TSG101 と相互作用します。TSG101 は同じ結合部位で PDCD6IP と競合します。相互作用は細胞質分裂に必要なですが、ウイルスの出芽には必要ありません。FAM125A、VPS37B、VPS37C、および VPS28 と相互作用する。、組織特異性:広く発現しており、主に増殖組織に発現する。精巣では高い発現を示す。成人および胎児胸腺、ならびに様々な癌細胞株では中程度の発現レベルを示す。消化管の様々な部位、骨髄、リンパ節、胎盤、胎児心臓、胎児脾臓では低レベルの発現を示す。脳ではほとんど検出されない。、

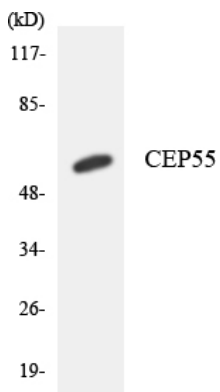
研究分野

細胞生物学

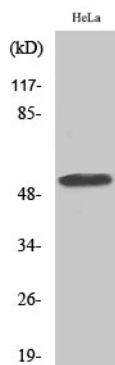
画像データ



CEP55 抗体を用いた HeLa 細胞および HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CEP55 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CEP55 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析